

「相模原事典」発刊

歴史や人物、1300項目

相模原市南区相武台に住む文芸評論家の浦田佑さん(89)と妻で元小学校教諭の久子さん(88)が、古代から現代まで相模原の事跡をまとめた「相模原事典」(B5判282頁、日相出版刊)を発刊した。郷土史家の夫妻が二人三脚で調べ上げた共著。地域の魅力と歴史的な変遷を立体的に浮かび上がらせた。

浦田さんは作家・井伏鱒二の研究などの文芸評論家として大きく活躍し、郷土史家として多くの著書を発表してきた。久さんは長年にわたり市内の小学校で教壇に立つ傍ら、郷土史を研究し、市史編さん審議会委員も務めた。

浦田さん夫妻 二人三脚で詳細取材

地誌や自然、歴史、風俗、社寺、観光、出来事、人物など各分野から1300項目を取り上げ、相模原のことなら何でも分かるような『百科事典』に仕上げた。

浦田さんは作家・井伏鱒二の研究などの文芸評論家として大きく活躍し、郷土史家として多くの著書を発表してきた。久さんは長年にわたり市内の小学校で教壇に立つ傍ら、郷土史を研究し、市史編さん審議会委員も務めた。

08年にご開帳となった津久井観音霊場の5カ寺や国指定の縄文遺跡「勝坂遺跡」から出土の土器や遺跡近くの湧水地、照葉樹林、第二次大戦中に旧藤野町に疎開した藤田嗣治や佐藤敬らの絵画作品を、巻頭の4ページにカラー写真で収録した。市販用50部を含めて150部を発売した。1部税別3000円。品切れの場合、モノクロの廉価本も刊行の予定。問い合わせは日相出版(042・748・6020)。

平泉(岩手県)に島流しのまま没した祖父の墓を供養する「一遍聖絵」の一場面。一遍はこの後、伊予から落ち延びて当麻山(同市南区当麻)に隠れ住んだ家臣を訪ねた際にいおりを結び、この地が現在の無量光寺とされている。



二人三脚で「相模原事典」を発刊した浦田さん夫妻



「一遍聖絵」の一場面を表紙にした相模原事典